

第55回

神奈川県 美術展

THE 55TH KANAGAWA ART EXHIBITION 2019

全国公募展

第55回神奈川県美術展

The 55th Kanagawa Art Exhibition 2019

1期展 [平面立体]

2019年9月4日(水)～9月15日(日)

2期展 [工芸・書・写真]

2019年9月18日(水)～9月29日(日)

会 場

神奈川県民ホールギャラリー

厚木巡回展

2019年10月2日(水)～10月12日(土)

休み：10月7日(月)・8日(火)

会 場

厚木市文化会館展示室

主 催

神奈川県美術展委員会

神奈川県民ホール

[指定管理者：(公財) 神奈川芸術文化財団]

神奈川県

共 催

(公財) 厚木市文化振興財団

協 賛

(公財) はまぎん産業文化振興財団

神奈川県文具事務用品団体連合会

(株) ニコニイメージングジャパン

(株) ホテル、ニューグランド

松田油絵具(株)

後 援

神奈川新聞社・NHK 横浜放送局

tvk(テレビ神奈川)・FMヨコハマ

第55回 神奈川県美術展 関係者名簿

(2019年9月4日現在)

神奈川県美術展委員会

委員長 磯見 輝夫
副委員長 林 義亮

委員

水沢 勉 加藤 良造 沢山 遼
清水美三子 川口 淳 富田 康子
西村 東軒 船本 芳雲 関次 和子
圓井 義典 大場 勇人 折原 守

審査員

平面立体

大塚 真弓 清水美三子 袴田京太郎
水沢 勉 保井 智貴

工芸

石田 明里 狩野 智宏 川口 淳
関井 一夫 富田 康子

書

石川 芳雲 石坂 雅彦 笠嶋 忠幸
齊藤 紫香 船本 芳雲

写真

桐谷麗了子 関次 和子 圓井 義典
村上 仁一 村越としや

応募・入選・入賞者数一覧

	平 面	立 体	工 芸	書	写 真	合 計
応 募	265 人 (331 作品)	41 人 (47 作品)	93 人 (100 作品)	144 人 (144 作品)	185 人 (463 作品)	728 人 (1,085 作品)
入 選	80 人 (80 作品)	25 人 (27 作品)	85 人 (88 作品)	90 人 (90 作品)	60 人 (60 作品)	340 人 (345 作品)
内、入 賞	10 人 (10 作品)	2 人 (2 作品)	9 人 (9 作品)	10 人 (10 作品)	9 人 (9 作品)	40 人 (40 作品)

※入選・入賞数は、2019年7月11日時点で確定した数字です。

ごあいさつ



今年も全国の皆様から意欲と創意あふれる数多くの作品を御出品いただき、神奈川の文化芸術の力を結集した神奈川県美術展を開催できますことを、主催者の一人として大変喜ばしく思います。また、この美術展の開催に当たり御尽力いただきました関係の皆様方に、心からお礼申し上げます。

今年で第55回を迎える神奈川県美術展は、国内でも有数の大規模な公募美術展です。昭和40年の創設以来、芸術界を志す方から、趣味として創作活動に取り組まれる方まで、幅広く作品を発表する場として本県における美術界を牽引してきました。この美術展での入賞を契機に、全国、そして世界へと羽ばたいていかれた方も数多くいらっしゃいます。

今回も、平面立体、工芸、書、写真の4部門合わせて1,085点もの御応募をいただきました。会場には、厳正な審査を経て選ばれた、素晴らしい作品が数多く展示されています。御来場の皆様には、作家の方々が心を込め、自由な発想で表現した才能あふれる作品を存分に味わっていただけるものと思います。

県では、文化芸術の魅力で人を引きつけ、地域のにぎわいをつくり出す、マグネット・カルチャー（マグカル）の取組を推進しています。

さらに、ラグビーワールドカップ2019™や東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の機会をとらえ、より多くの方々に本県の文化芸術を鑑賞していただくことに力を入れています。

豊かな感性と優れた芸術性を併せ持つ作品が一堂に会するこの神奈川県美術展は、こうした取組を更に加速する大きな力になるものと期待しています。

最後に、このたび御出品いただきました皆様の創作活動への情熱に深く敬意を表しますとともに、今後の更なる御活躍を心からお祈り申し上げます。

令和元年9月4日

神奈川県知事 黒岩祐治

ごあいさつ



神奈川県美術展は、本県における美術の普及振興をはかり、県民文化の向上と作家の育成に寄与することを目的に、昭和40年に始まりました。県内随一の公募美術展として広く県民に親しまれるとともに、新進作家の登竜門としてこれまで多くの優れた美術家を輩出してまいりました。このことは、ひとえに多くの皆様のご尽力の賜物と心より感謝申し上げます。

全国公募となって4年目の本年は、多くの地域から応募作品が集まりました。応募数は、平面立体、工芸、書、写真の全4部門で1,085点となり、各部門の厳正な審査の結果、全345点の入賞、入選作品が選ばれました。

本展は、多彩な美術作品を一度にお楽しみいただける絶好の機会です。また、神奈川県民ホールギャラリーの展示空間を活かした大作も見どころの一つです。

さまざまな想いのもと、多くの時間をかけ制作に臨まれ出品された、全ての皆様に敬意を表したいと思います。そして、これからもこの神奈川県美術展において、新たな時代を切り開くような美術作品と出会えることを祈念いたします。

本展において、厳正かつ丁寧な審査にあたられた審査員の皆様と、運営に関し専門的な立場からご助言をいただきました委員の皆様に厚くお礼を申し上げます。

さらに、各賞を賜りました公益財団法人はまぎん産業文化振興財団様、神奈川県文具事務用品団体連合会様、株式会社ニコンイメージングジャパン様、株式会社ホテル、ニューグランド様、松田油絵具株式会社様をはじめ、ご関係の皆様に厚くお礼を申し上げます。

令和元年9月4日

神奈川県美術展委員会委員長 磯見輝夫

目次

1 期展 平面立体

受賞作品目録 平面立体 6

入選作品目録 平面 7

入選作品目録 立体 8

審査講評 平面立体 9

平面立体 受賞作品 10

2 期展 工芸・書・写真

受賞作品目録 工芸・書・写真 20

入選作品目録 工芸・書・写真 21

審査講評 工芸 25

工芸部門 受賞作品 26

審査講評 書 32

書部門 受賞作品 33

審査講評 写真 40

写真部門 受賞作品 41

平面立体

1 期展

受賞作品目録

平面立体

大賞	Rikako	東京都	おまえが水の中の魚のように楽しかったころ	平面
準大賞	後藤 夢乃	茨城県	Merry Marionette.	平面
特選	村上 力	東京都	PICASSO	立体
奨励賞	国次 真理	横浜市	むかいナガレいずこへまいる	平面
かながわ賞	前田 秀水	横浜市	You are here.	平面
かながわ賞	鈴木弥栄子	藤沢市	次の幕が上がる	平面
県立近代美術館賞	森 茜	座間市	Obsession #1 – fullbody 4	平面
県議会議長賞	安田 文夫	茅ヶ崎市	源氏姉妹・雨夜の品定め (あのよ)×(このよ)	平面
美術奨学会記念賞	諸橋 花野	千葉県	わたしシネマ	平面
美術奨学会記念賞	設楽 陽香	新潟県	Show inside	立体
はまぎん財団賞	井上 洋介	横浜市	魂のありか	平面
マツダ賞	飯田 耀子	愛知県	相生 IV	平面

※かながわ賞は、神奈川県在住・在学・在勤の出品者の作品を対象とした賞です。

※県立近代美術館賞は、平面立体部門において神奈川県立近代美術館による作品買い上げ賞です。

※県議会議長賞は、平面立体部門において県議会議長より贈られる賞です。

※美術奨学会記念賞は、長年、神奈川県的美術振興に寄与してきた財団法人神奈川県美術奨学会を記念して創立され、35歳以下を対象とした賞です。

※はまぎん財団賞は、平面立体部門において（公財）はまぎん産業文化振興財団より贈られる賞です。

※マツダ賞は、平面立体部門において松田油絵具(株)より贈られる賞です。

※厚木市文化振興財団賞は、厚木市在住の出品者を対象とした賞です。

※県立近代美術館賞以降の賞は、創設順に記載しています。

※各部門の大賞・準大賞の略歴は受賞者からの提供によります。

※都道府県および市町村名は出品者の現住所です。

入選作品目録

平面

秋山 遥夏	街灯り
角川真穂子	picnic
神岡 泉	Q.I
木村 優希	My butterfly II
久保田華布	からかわれる人（日常生活）
小林 柚乃	今際の際
高瀬実穂子	世界樹 I
張 碩	越えてゆけ
徳江 益美	バラ図
林 未来	減法魔術
細井 彩花	2018,11,27
若松はるか	あなたが忘れてしまったものと わたしはいつまでも眠りたい I want to sleep with what you forgot
吉松由梨亜	集合地獄
相沢 克人	アカオクロオウムのつがい 若しくは人のつがい（雄）
白石 武市	小さくガッツポーズした日
瀬川 寛	水田の翠碧／衛星からの秋田 II
千葉 秀子	ウツロイ
山脇 勇大	resonance
加藤 聖乃	ひかりのおりところ
上谷田弘代	私の棲む世界
横山 博志	吹き溜まり
清水 麻実	ざわめきがきらめく時
宮澤 賢三	別荘の風呂場
山田 尚美	憩い
青砥 伊臣	夏の眩暈
森田 稜子	貌 A
松岡 円香	Revival
鈴木 洋子	結ぶ C
伊藤 栄子	感謝!! 癒されたよ
阿部 英也	昨日までの風景
張 慶	消えてゆく
吉田茉莉子	Uroboros
河原條勝己	意識（ふるさと）
横山 陽一	夢はどこさいったのさ II
張 媛媛	猫遊魚池図
榎戸優美子	漂う
佐々木朋子	Mars
室井公美子	HEX I

※掲載は作品番号順です。

依田 淳二	夏のたそがれ
磯野 悦郎	311 鎮魂歌
赤羽 孝也	Progress
河野 良雄	奥多摩 2018.12.8
大塚とみ子	宇宙の響き
廣江 友和	内面地獄
SUZUKIMI	Sentimento de Patilla I
ササキ永利子	夜の散歩者
岡田 寛	デストロイヤー（破壊者）
満武 京子	葡萄酒
西川 絵里	見えない水
横山 孝司	木の根元 No.5
飯村 優介	水象スイジン '19L
木村 真光	現身
上川 愛	こっちおいで
勝山 治実	立つ
三觜 裕哉	Connection 2019
御手洗理英	決断－鵜を躲す
赤堀 英子	ゆるやかな季節
原田 野乃	知らぬが仏と言うけれど
野口 紗綾	ただよう
広瀬 弘幸	防砂 1
颯川麻美子	時の跡
藤森 哲	境界 ground
郷古 和	北帰行・心のありよう
村田 遥香	かえる森
横山 芙実	楽土を望みて
伊藤ちさと	春のきおく
崎山あいり	Fanfare
五十嵐恵子	ただ、そこに在る
山本真理子	受け入れる
秋葉麻由子	鏡石

入選作品目録

立体

山本　篤子	空蟬2
松原　茉広	歩
玄刃	古代ストーリー
相澤　秀人	Dynamo
小澤　史雄	頭
LUNA..CLIP..	邪念ハ無心ヲ所望スル
竹鶴　寿男	「イカロス」
湯尾　賢嗣	make up
笹尾　　真	積む（太宰治「走れメロス」より）
村上　　力	TARO
宮竹　孝弥	カンガルーは子を抱かない
上原　佳代	spiral shell
金井　葉子	兆香
森田　太初	二ホンオオカミ
久保　　創	無心
永井　慧彦	眺めの充填
いわさき智沙	3D　cat　－まだ名のない白猫－
いわさき智沙	3D　cat　－築地のあきお－
林田　洋子	A HA
羽鳥真早雄	空虚
西村　　卓	DREAMS　－ここからきた－
谷敷　　謙	－PLACE－　shinjuku ANTY EASY ②
田平　　徹	Gabriel　の飲み
山本　豊彦	ある危機又は終焉
秋山　果凜	どこにでもいける車輪

※掲載は作品番号順です。

審査講評	
平面立体	水沢　勉（神奈川県立近代美術館　館長）

本年度で55回目を迎える神奈川県美術展。全国でも有数の規模と歴史を誇る公募展です。このたびの平面・立体部門の応募総数は、合わせて306人、378点でした。そのなかから平面・立体合わせて107点が、5名の審査員によって選ばれ、さらにそのなかから12点が入賞作品として絞り込まれました。

審査は、審査員全員の可否の判定を数値化して、入選作を決定し、その結果を受けて、投票による評価を集計し入賞作品を選び、さらに合議を重ねて大賞以下、受賞作品を選定いたしました。

審査終了後、複数の審査員からもそのような感想が聞かれましたが、立体部門が応募数も例年比べて少なく、低調であったことは否めません。とはいえ、いくつかの高水準の作品も含まれていました。

以下、受賞作品について簡単に触れておきたいと思います。

大賞（Rikako《おまえが水の中の魚のように楽しかったころ》）は、三枚のパネルを複合させる、意識的にインスタレーション的な要素を組み込んだ意欲作でした。スタイルは、軽やかなポップ的なものですが、タイトルにも暗示されているようにある喪失感も漂わせています。とはいえけっして過度に深刻ではなく、色彩が華やかに美しく、一抹の悲しみを含んだ余韻深い作品となっています。準大賞（後藤夢乃《Merry Marionette.》）は、それとは対照的な濃厚な油彩表現による大型作品で、夜の気配の立ち込めたファンタジーを伸びやかに描いて高く評価されました。油彩表現の伝統を継ぐ作品といえるでしょう。

特選（村上力《PICASSO》）は、イコニック存在であるピカソの姿をほぼ実物大の立体として表現したものでした。いわゆる彫塑という枠組みを意図的に外した麻布や漆による造形であり、しかも、蠟人形のような写実性は一顧だにせず、むしろ滑稽味と風刺性を盛り込んだ秀作でした。奨励賞（国次真理《むかいナガレいずこへまいる》）は、胡粉など伝統的な画材をもちいながら、それに縛られない平面の可能性を追求していました。かながわ賞（鈴木弥栄子

《次の幕が上がる》）は、驚くべきテクニックで、カーテンの質感や女性の脚部を描きだし、注目を集め、もうひとつのかながわ賞（前田秀水《You are here.》）は、稠密なペンの線描の集積にフォルムを白く繊細に震えるように浮かびあがらせたドローイング的な作品でした。近代美術館賞（森茜《Obsession #1－fullbody 4》）は、従来にない技法によって現代的な身体表現に成功していました。版の拡大を試みる実験作でもあった。県議会議長賞（安田文夫《源氏姉妹・雨夜の品定め（あのよ）×（このよ）》）は、カラージュに描画を加え、暗示的な表現を日常性のなかに達成していました。美術奨学会記念賞（設樂陽香《Show inside》）は、抽象による木彫というむずかしい表現に挑んで、瑞々しいフォルムを生みだしていました。もうひとつの美術奨学会記念賞（諸橋花野《わたしシネマ》）は、手堅い技法で光の効果を巧みに描きだし、将来性を感じさせました。はまぎん財団賞（井上洋介《魂のありか》）も、「洋画」「日本画」という従来のジャンルを越えてしまうような驚くべきイメージを出現させていました。マツダ賞（飯田耀子《相性Ⅳ》）は、版画ならではのイメージのズレや重なりを意識した作品で現代人の「自画像」を提示していました。

わたしたちは、いま20世紀前半の大きな戦争の時代のあとの、小さな戦争（その典型がテロです）の時代を生きています。深い傷はまだ各所に残り、日々生まれつつあります。芸術はそれを癒します。でも、たとえ癒えたとしても傷は瘢痕として残り消しようがない。それを意識し、それから目を背けない。そのための芸術は重要な手段であることを、今回の入選作品は、やはりまた教えてくれたように思うのです。



大賞

おまえが水の中の魚のように楽しかったころ

Rikako

油彩、アクリル、針金
200×100cm / 150×60cm / 162×100cm

[略歴]
1997年 東京都生まれ
2019年 武蔵野美術大学造形学部油絵学科油絵専攻3年在籍

[個展]
2018年 個展「暗黙知」/Hammock cafe (東京)
2019年 個展「シュランムフィッシュ」/GALLERY b. TOKYO

[グループ展]
2017年 グループ展「僕らのハッピーエンド」
/Uptown Koenji Gallery (東京)
2018年 グループ展「Echo」/Uptown Koenji Gallery (東京)
2019年 二人展「そこにある実存について」/桶屋 (東京)
2019年 公募展「Tokyo Independent 2019」
/東京芸術大学陳列館 (東京)

[その他の活動]
2017年 アーティストインレジデンス「Cokun, Artist Village」
2017年 第10回「わらアート祭り」新潟市西蒲区と
武蔵野美術大学の協働による制作展示
2017年 超汐留パラダイス 汐留ストリートフェスティバル2017
SUMMER (汐留シオサイト)
2018年 ファッションショー「きかざるつながるよこをみる」
運営・企画/高円寺自治会 (東京)

[受賞]
2018年 第20回雪梁舎フィレンツェ賞 佳作
2018年 第47回シエル美術賞 藪前知子入選
2019年 第37回上野の森美術大賞 入選
2019年 第55回神奈川県美術展 大賞



準大賞

Merry Marionette.

後藤 夢乃

パネル、油彩
224×181cm

[略歴]
1996年 東京都生まれ
2019年 女子美術大学 芸術学部美術学科洋画専攻卒業
東京藝術大学大学院美術研究科修士課程油画専攻在籍

[受賞歴]
2019年 卒業制作 女子美術大学美術館奨励賞、加藤成之記念賞
東京藝術大学O氏記念賞

[展覧会]
2018年 個展「Voyage」THE SECRET MUSEUM、東京



特選

PICASSO

村上 力

麻布、樹脂、漆、他
162×65×60cm 12kg



奨励賞

むかいナガレいずこへまいる

国次 真理

紙本着彩
162×130.3cm

かながわ賞

You are here.

前田 秀水

キャンバス、アクリル、インク
162×162cm

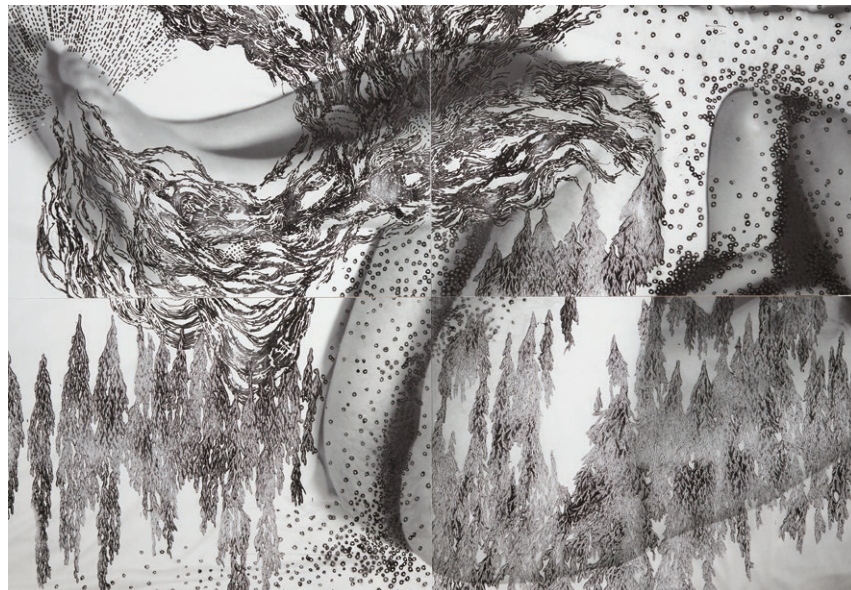


かながわ賞

次の幕が上がる

鈴木 弥栄子

パネルに綿布、白亜地、油彩
162×162cm



県立近代美術館賞

Obsession #1 — fullbody 4

森 茜

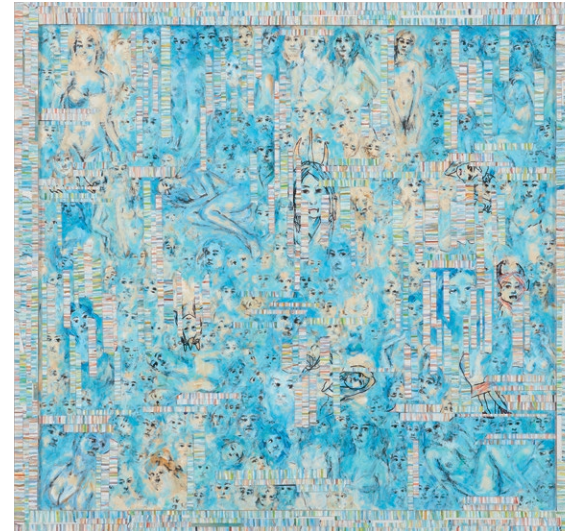
インタリオ
146×210cm

県議会議長賞

源氏姉妹・雨夜の品定め（あのよ）×（このよ）

安田 文夫

アクリル、ダンボール板
93.5×99cm



美術奨学会記念賞

わたしシネマ

諸橋 花野

パネル、紙本彩色、岩絵具
187.8×233.3cm



美術奨学会記念賞

Show inside

設楽 陽香

楠木

145×60×55cm 20kg



はまぎん財団賞

魂のありか

井上 洋介

アルミ複合板、カシュー塗料、洋金箔
162×182cm



マツダ賞

相生IV

飯田 耀子

マーメイド紙、シルクスクリーン
79×108cm

工芸・書・写真

2 期展

受賞作品目録

工芸

大賞	戸叶　恵介	横浜市	白金彩雲雷紋龍塔壺	陶芸
準大賞	興石　孝志	横浜市	レクイエムの上に	切り絵
特選	西森　彩晴	東京都	友禅訪問着「秋声」	染色
奨励賞	澤田麟太郎	岩手県	Storage 2019 J"a	陶芸
かながわ賞	橘川　和男	綾瀬市	盛り皿宴座	木漆工芸
かながわ賞	石橋　聖肖	茅ヶ崎市	虚空	金工
美術奨学会記念賞	矢津田貴慧	東京都	a feeling of floating…	鋳物
美術奨学会記念賞	佐藤百合奈	東京都	雪見	陶
ホテルニューグランド賞	山崎　妙子	静岡県	DANCE	日本刺繍

書

大賞	生駒　蘭嵩	鎌倉市	李商隠詩
準大賞	原　　龍児	横浜市	愚公移山
特選	日守　　錬	中郡大磯町	自作詩「虹の袂まで」
奨励賞	浅見　玲湖	横浜市	藤州江上夜起對月贈邵道士一首
かながわ賞	鳥海　花春	厚木市	夏の夜も
かながわ賞	三橋　和泉	横浜市	宋之問詩
美術奨学会記念賞	小林　史青	横浜市	道無窮
美術奨学会記念賞	宮林　玲翠	横浜市	古の天地に思いを馳せて～万葉集より～
県文具事務用品団体連合会賞	岡田　明子	藤沢市	詩　父からの贈り物
厚木市文化振興財団賞	紙崎　玉翠	厚木市	小林幸子の歌（こばやしゆきこのうた）

写真

大賞	中村　佳綸	横須賀市	ふたつのひかり	2 枚組
準大賞	加藤　豁子	横浜市	落ちる影の中で	3 枚組
特選	藤本　寿春	横浜市	種子（ゼラニウム）	3 枚組
奨励賞	小澤　良治	大和市	親子の春	
かながわ賞	岩崎　茂樹	鎌倉市	津軽の冬	3 枚組
かながわ賞	荒川　拓大	横浜市	Presence	
美術奨学会記念賞	加藤　優里	東京都	調	2 枚組
美術奨学会記念賞	Zhang Yanbo	東京都	Miss You	
ニコン賞	清水　　進	海老名市	舞娘（まいこ）	

※かながわ賞は、神奈川県在住・在学・在勤の出品者の作品を対象とした賞です。

※美術奨学会記念賞は、長年、神奈川県的美術振興に寄与してきた財団法人神奈川県美術奨学会を記念して創立され、35歳以下を対象とした賞です。

※ホテルニューグランド賞は、工芸部門において（株）ホテル、ニューグランドより贈られる賞です。

※厚木市文化振興財団賞は、厚木市在住の出品者を対象とした賞です。

※県文具事務用品団体連合会賞は、書部門において県文具事務用品団体連合会より贈られる賞です。

※ニコン賞は、写真部門において（株）ニコンイメージングジャパンより贈られる賞です。

※各部門の大賞・準大賞の略歴は受賞者からの提供によります。

※都道府県および市町村名は出品者の現住所です。

入選作品目録

工芸

吉田　浩一	休み時間	ステンドグラス
本木　理紗	calm	ガラス
清水　　実	フラクタルな立体組木パズル03	木工
石川　秀隆	令山　Two－way－vase	陶芸
森　　玲梨	郷愁　－1951年－	テグス
森　　玲梨	郷愁　－2018年－	テグス
薬王寺太一	Quark 泉	陶芸
千葉ひろみ	カーニバル2019	陶芸
安部　邦子	獅子舞　－こっちだよ－	陶芸
植松　勇人	川	木工
田中　ちか	旅人～オリオン座～	陶芸
瀬戸　清美	四季	ドライフラワー
瀬戸　清美	into	おし花
舟橋　真弓	手毬	ステンドグラス
島津　昭恵	羽化(思いやる心・応える心)	廃物利用
大野　澄子	潮流	陶芸
三浦　静香	縷縷	ガラス
石橋　伸一	輝く水面	漆塗
藤田　慎治	地層を切り取る	陶芸
黒木　正輝	NEXT	陶芸
小酒井基紘	スーパームーン	綴れ織り
臧　　傑	楽しい	染織
小林　広美	菓子器「うつろ舟」	漆芸
日野　祐美	芍薬	モデリングネイル
原　千鶴子	冬の恵	日本刺繍
角田　和子	青鞥	染織
佐川　恭介	月の光に包まれて	ガラス

ZARAZUA ROSALES RAFAEL ALEJANDRO		
	Perseo	ガラス
門田　眞幸	波紋の舞	ガラス工芸
生頼美砂恵	繁	陶
源五郎丸耀子	春風・瑞祥	刺繍
阿部　貴央	ガラスのフィギュアスケート靴	
		吹きガラス

山崎　友香	風を編む	ガラス
長崎　豊子	水面～ゆらめき～	陶芸
湯浅　明子	sumika	ガラス
土岐　和幸	Hexagonal Lilies	陶芸

※掲載は作品番号順です。

ワダコーヘー	あの夏僕が食べたフライドチキンの骨格標本、あるいは墓碑	ガラス
田中　好子	迷路の入口	染織
壁谷庄太郎	丸文黒釉壺	陶芸
渡部　裕子	花の詩	ガラス
小林　利華	踊蛸酒器	ガラス工芸
古坊　聖子	タイル	陶芸
濱田　邦子	nouvelle année	ガラス工芸
中ぞの蝶子	奔る	切り絵
清水　隆子	PRISM	注染
清水　隆子	session	注染
穴戸　紀子	白と黒（花入れキューブ）	陶芸
北原ふみ子	rêve	陶芸
島本　登俊	潮騒の詩	陶芸
下平久美子	臍吹	陶芸
大塚　國男	竜宮、乙姫様の腰掛け	陶芸
望月　雅文	エーゲ海幻想	陶芸
落合　里佳	寄り添う	切り絵
落合　史朗	楯円の企み	陶芸
井原　香織	海の中で耳澄ませし音色	陶芸
江成　光行	Big Bang	ひょうたん工芸
宮川香代子	摩天楼のあかり	漆
鈴木　典子	涼暮月	陶
野口　耕司	アシタテンキニ・ナーレ!!	陶芸
吉池ちひろ	夏の思い出	織物
家才子雅樹	衣器 VII	陶芸
荒井　真澄	白は綻ぶ	陶
福田　典子	雨ふり	七宝
大石　陸平	般若心経	創作鎌倉彫
伊藤　昭仁	ゲシュタルト崩壊	陶
石井あや子	関わりの体積	陶芸
松本　圭子	青白磁クレマチス文影青五角形皿（はれの日の器2）	陶
浅井　祥子	立夏の水辺	織
谷本あゆみ	灯・ゆらぎと平衡	陶芸
篠原　祐介	楽しきかな、我が	革工
二俣　吉秀	生命の木“手…そして祈り”	革工芸
村瀬明日美	小さな儚い舞	ガラス
住吉　孝行	藍の風吹く	陶

工芸

志賀 邦範	トトロ 0970	陶芸
野中 春利	縄文式磁器	陶
山崎 雄央	水面	ガラス
長谷川夏子	晩夏	漆芸
ワタナベマリコ	fluctuations	陶
城戸美佐子	個性の生き様	陶

書

城戸 赫陽	ハンガリー平原の夏（自作）
清澤 可實	流れくる季節（自作）
岩野 信吾	ららの歌（マーレーズの詩）
江藤 多恵	硝子のかけら
林 蘭愛	さくら舞う（林ゆきの詩）
阿部 茜蝶	雪降る（見付拓詩）
高橋 聖陽	幻影（自作）
笠原 啓子	春の色ぼつぼつ（自作詩）
平出 節子	住村信子の詩
杉山 和子	石川通正の詩 舞い
山本 清子	桂寧々の折りおりのうた
深沢 和子	見付拓詩 陽の落ちる前に
児玉 真理	実を結ぶとき（自作詩）
川島智恵子	菜種油のあかり（自作詩）
篠 能里子	日守菜穂子の詩 散り急ぐ風花
平澤 毅	日守菜穂子／黒白／色彩
池田 美子	見付拓の詩 春になれば
中村 春江	荒山正の詩「嵯峨野路の春」
竹内絵里子	夏の思い出（児玉真理の詩）
竹内めぐみ	住吉南風の詩 微かな調べ
猪狩優里子	時計屋のモノログ（自作詩）
両角 花生	流れる風の中で
本間 琴秀	晩秋（北原白秋のうた）
比留川秀水	短歌 北原白秋
長井 黙庵	短歌（滝野沢弘の歌）
吉村 明子	門出に（森山謙一郎のうた）
牛山 香流	呉蘭雪詩 箕山太守歸自南昌邀游 一杯亭嶽雲寺吉陽樓同作
前橋 蒼峻	田家雜興
富塚 香峻	白楽天 客中月
谷 須美子	書譜より
下門 芳子	雲
黒沢 玲香	杜甫詩「春婦」
河田 玲洸	いつまでか
中尾 直子	ふるさとに
家入 博徳	拾遺愚草二首
氏平 堯恵	漢詩 友人に寄す
古矢 春暄	陶淵明詩「飲酒其九」
片岡 稲處	高攀龍詩 夜歩

書

片山 笙晃	朝焼の雲海
滝川 実桐	おはよう
猪野 光舟	酔語近天真
日下ミサエ	新古今集抄
下川 碩園	東湖舟夜
竹内 徹	家中有宝
河又世津子	ふるさとの
岩浪 由美	夏の夜
宮野しえり	臨 本阿弥切
木下 清華	玉に貫く 西行の歌二首
浅間 貴子	萬葉集
古河 裕子	天の川
松本佳乃子	夜泊黄山聞殷十四呉吟
白井 初枝	靈隠寺 駱賓王 詩
清水 理佐	なきわたる
佐藤 白峰	月夜
沖田 裕子	斎宮女御集
夏目 雲蹊	奉和初春幸太平公主南莊應制
兎澤 羊舟	雪望
松田 栖舟	蒙山道中
江口 志舟	漂母祠
上村 泊舟	登報恩寺塔絶頂
荒川 涼舟	夏夜西亭即事
飯島 静翠	歳朝口占
山野井詩舟	知静勝
饗庭 雅翠	万葉の歌より十四首を
早坂 天岑	臨針切
池上 恵峰	木の間より
遠藤 子杏	韜光養徳
平林 裕子	内潤外朗
松本 芳枝	闊達大節
柿沼 芳秋	岨閣感懷
山田 栄恵	新古今和歌集外3句
重田 鶴耀	趙嘏詩
岡田 珠美	比庵の歌
加藤 美和	八十字治川
石黒 雅彦	灣
鈴木 洋香	雲臥
菱田 右紫	和為貴

小林 拓也	「易経」需卦
古里 航	太虚何常一毫障塞
猪野 公一	戴勝降于桑

入選作品目録			
写真			
古山 豊	迷路		
三村 信昭	幸せはどこにあるの		
菅原 郁夫	樹齡のレリーフ	3枚組	
伊部 慶一	邯鄲の夢	3枚組	
鈴木 隆明	明日をつかむ	3枚組	
黒田 立夫	鬱金香	3枚組	
稲次 正知	ある春の日の出来事		
菊池 賢治	何が見えるの		
高橋 福生	光のKISEKI	3枚組	
貞本 一彦	消えゆく氷河	3枚組	
大澤 勇	真夜中のパーティー		
長田 君雄	梅雨の合間		
三谷 享	風のたわむれ	3枚組	
内藤 秀和	湘南	3枚組	
永井 薫	流水のまち	3枚組	
渡辺 英美	学び舎の余韻	3枚組	
林 知道	海への願い	3枚組	
関 直子	面相	3枚組	
田中 雄二	影	3枚組	
土屋 義昭	満願成就	3枚組	
萩久保次郎	ヤマナカッシー		
小田柿雅彦	時が流れて	2枚組	
高木 研璽	立つ		
山本 拓平	霧笛が遠くで		
新関 恵子	めくるめく夏	3枚組	
小村 真以	切り離された午後		
田村知佳子	シーサイド・プール	3枚組	
小杉美千代	あなたの声が遠ざかる	2枚組	
津田 祥夫	街中のファンタジー	3枚組	
内山 涼	evergreen	2枚組	
青木 保	木霊 一兵士の面影一	3枚組	
渥美 大亮	カウンターアタック!!		
大見川竜一	Last Stand #3		
八坂 梨奈	大人になっても		
田中 洋一	岩場のアート	3枚組	
佐藤 健司	風		
高齋慶二郎	ライシャワーが来た夜	3枚組	
渡部百合子	早春の詩		
小野 早苗	夏色		

※掲載は作品番号順です。

審査講評	
工芸	富田康子（横須賀美術館 学芸員）

今年度の工芸部門は、93人の方から100点の応募をいただき、このうち88点を入選作に選ぶことができました。昨年度、152人の方から173点の応募があったのに比べ、応募者数は減少していますが、陶、金工、ガラス、染織、漆など多彩なジャンルが一堂に介するという、工芸部門ならではの特徴は変わることなく守られています。特に、切り絵や刺繍など、ここ数年、出品が増えているジャンルは、今年も活況でした。

以下に、入賞作品を中心に、短く講評を書かせていただきます。なお、受賞作品を選ぶに当たっては、その素材ならではの特性を形に反映させ、独自の造形世界を生み出しているか、という点に注目しました。

まず、大賞・戸叶恵介さんの《白金彩雲雷紋龍塔壺》は、高さのある、鈍い光沢を持った壺に、複雑な装飾を施した作品です。古代中国の青銅器を思わせる一方で、メカニカルな雰囲気もあり、また、ゴシック風の装飾パターンも用いられていて、さまざまな造形要素が混在しています。審査では、それらを厳粛な雰囲気にまとめた実力が評価されました。表面に取り付けられた角柱のようなパーツと、文様表現に用いられているさまざまな施釉のテクニックにも新鮮味があります。

準大賞・興石孝志さんの《レクイエムの先に》は、切り絵の作品。切り絵は近年、神奈川県展で増えている分野ですが、本作は、東洋的なイメージではなく、バラ窓のようなヨーロッパ風のモチーフに挑んだ点に、意外性があります。厚みのある紙が何層にも、きっちりと重ねられたようすには凄みとともに精神性が感じられます。

特選・西森彩晴さんの《友禅訪問着「秋声」》は、数少ない本格的な友禅の着物で、撒き糊のテクニックが際立っています。

奨励賞・澤田麟太郎さんの《Storage 2019 J'a》は、大胆な割れと陶芸らしからぬ色調に、アメリカの前衛陶芸表現の水脈が感じられ、正統派の前衛工芸として目を引きます。

神奈川在住の方を対象とする、かながわ賞は、橘川和男さんの《盛り皿宴座》と石橋聖肖さんの《虚空》で、いずれも安定した技術を基盤とした、完成度の高い作品だと思います。

35歳以下の作家を対象とした美術奨学会記念賞は、緻密に表現された空想世界が魅力の、矢津田貴慧さんによる金工作品《a feeling of floating…》と、たくさんの陶のパーツの集積が新鮮な佐藤百合奈さんの《雪見》を選びました。いずれも、近年の工芸的造形の特徴をなす表現で、時代の雰囲気をつえた佳作だと思います。

ホテルニューグランド賞は、山崎妙子さんの刺繍作品《DANCE》です。刺繍糸による繊細な描写が地色に映え、いかにも深い海の中という神秘的な雰囲気が、よく伝わります。

最後に、応募の際にご配慮いただきたいことについて。それは、作品の持ち味を生かす仕上がり方が、やはりとても大切だということです。例えば、陶作品を照明器具に仕立てる場合は、その陶の形が、光の効果でよりよく見えるようになっているか。また、台座やフレームが、作品本体と釣り合っているかどうかも重要です。

それぞれの作品には固有の魅力があり、その中で特にアピールしたいポイントは、作者にこそ、よく見えていると思います。その点を引き立たせるような、最良のプレゼンテーションを期待します。



大賞

白金彩雲雷紋龍塔壺

戸叶 恵介

陶器
119×44×44cm 30kg

[略歴]

1986年 群馬県生まれ
2012年 多治見市陶磁器意匠研究所卒業
2013年 NEWgeneration展(文錦堂/岐阜)
2014年 個展(ギャラリー数奇/愛知)
2017年 神奈川県美術展 工芸部門
美術奨学記念賞
2019年 日本陶芸展 入選



準大賞

レクイエムの先に

興石 孝志

紙
50×50×9cm 6kg

[略歴]

1972年 神奈川県生まれ
2014年から字彫り(石材)の型紙の延長で切り絵を独学で始める

[受賞歴]

2014年 第50回神奈川県美術展 工芸部門 ホテルニューグランド賞
2015年 第51回神奈川県美術展 工芸 特選
12月 第25回紙わざ大賞 pam賞
2016年 第52回神奈川県美術展 工芸 入選
12月 第26回紙わざ大賞 入選
2017年 第53回神奈川県美術展 工芸 2作入選
7月 リサイクルアート展 優秀賞
12月 第27回紙わざ大賞 準入選
2018年 第54回神奈川県美術展 工芸 入選
12月 第28回紙わざ大賞 入選



特選

友禅訪問着「秋声」

西森 彩晴

絹

160×150cm



奨励賞

Storage 2019 J'a

澤田 麟太郎

陶

27×24×24cm 13kg

かながわ賞

盛り皿宴座

橘川 和男

檜

10.5×42×42cm 1.4kg





かながわ賞

虚空

石橋 聖肖

真鍮、銅、銀、木
140×100×100cm 7kg



美術奨学会記念賞

a feeling of floating...

矢津田 貴慧

ブロンズ、陶器、木
15×60×45cm 4.5kg



美術奨学会記念賞

雪見

佐藤 百合奈

磁土
39×19×20cm 3kg



ホテルニューグランド賞

DANCE

山崎 妙子

絹
90×50×3.5cm 4kg



審査講評	
書	笠嶋忠幸（公益財団法人出光美術館 学芸課長）

元号が変わり「令和」となって初めての神奈川県美術展は、第55回の節目と重なった。世の時勢は2020年オリンピック・パラリンピック開催に向かって盛況ムード上昇中である。

今回の出品点数は144点とやや減少したものの、それでも例年同様、力試しの秀作が集った。公正なる審査の結果、今年の入賞は90点となっている。審査終了後、審査員各々が所感を述べる中で、いくつかの指摘がなされた。やや減少気味の出品数を鑑み、規定に関して、より自由度が高くなるように調整が必要であること。若手の作家への参加要請をどう働きかけるかという点では、団体や専門の大学等への広報手段を工夫すべきことなど具体的な対策案が提示された。また他の公募展との時期的な重なりは毎年重要課題として話題にあがるものの、中々解決策が見いだせない。むしろ別の公募展で扱った素材やテーマであっても、作品一々の出来上がり具合や個性はどれも異なるので、作家自身が「重複」を嫌うことなく、より書き込んで仕上がりを高めたり、表現方法を変えるなどして挑戦していただければと思うがいかがであろうか。

以下、審査時の印象と結果とを簡潔にまとめておく。

全体を俯瞰してみたが、漢字書は例年レベル、今年も行草多字数の縦構成が主流で、横に展開する構成の作品は少なかった。少字数、大字書の作品は減って、出来映えも大人しいものであった。詩文書は神奈川の得意分野で常に出品数は多い。しかし審査員の満点を獲得する作品は今年もなかった。現代文を素材とする詩文書では、自由さがある一方、心地よさを具える表現を獲得するまでには、一定以上の鍛錬が必要だ。つまり氣にいった言葉や文章を単に筆墨で「綴る」レベルの行為と、作品として仕上がるレベルとは、全く別次元にあり、リズムや構成、白黒・余白の妙趣が理解されるまでには、何より経験年数が大事だろう。とはいえ、それは漢字書も仮名書もそして篆刻・刻字もまた、すべてに共通する課題である。だからこそ毎回、同じ分野で出品され

ている方々にお願いするのは、来年こそ別の分野での出品にも挑戦していただきたい、という希望と期待である。

そうはいつでも仮名書は独特な世界観をもっているためか、毎年、比率的に少ないのは残念でならない。中字作品では横展開の散らし書き、小字は卷子を拡げた形式で原寸に近い臨書となる保守的な傾向がある。だからこそ、本展ではもっと自由な気分で漢字書に負けぬ強さをもった大字仮名や工夫を凝らした書式の作品に挑戦していただけたら面白い。一つだけ、忘れてはならない点は、古典の筆法をしっかりと理解していないと破綻してしまう難しさだ。それは知的理解度と書き込み量とに比例するが、篆刻も同様、各作品には平均的な上達が認められたものの、まずはどうしてこの字形か？どうしてこういう表現方法になるのか？といった基本姿勢を今一度、ふり返ってみてほしい。

こうした中、本展における上位受賞者は、いずれもいわゆる受賞常連の方々となったことは、喜ぶべきか否か。大賞に選ばれた生駒蘭嵩氏「李商隱詩」は、金の龍文が摺られた朱色の彩箋を用いた力作。同氏が得意とする宋元朝のフォルムに明清朝の筆様を融和させた行草体で横展開にまとめたもので、群を抜いた得点となった。準大賞は篆刻作品で原龍児氏「愚公移山」。大型の石に挑戦し、四字を明確な構成で布置し大胆に刻したもの。刻風は作家の慣習と好みにより成され、技巧が全面に現れやすいが、本作ではその点をやや堪えて、より平易な表現美を探った点に評価があった。そして特選、日守鍊氏は二十代の若手作家ながら昨年につづき受賞。一字一字に付すアレンジ、字形の歪みの調子には、昨年とことなる味付けがなされていたが、それが自然なまとまりをもって清々しい仕上がりとなっていた。

来年はオリ・パラに負けぬ、挑戦的な作品の多数出品を期待したい。



大賞

李商隱詩
生駒 蘭嵩

61×182cm

〔略歴〕
毎日書道展審査会員
東方書道院同人
朝聞書会理事
神奈川県立茅ヶ崎高等学校芸術科書道教諭

〔受賞歴〕
文部科学大臣優秀教員表彰
日展入選
毎日書道展会員賞受賞
教育功労者表彰
大東文化大学主催全国書道展にて文部大臣賞（2回）



準大賞

愚公移山

原 龍児

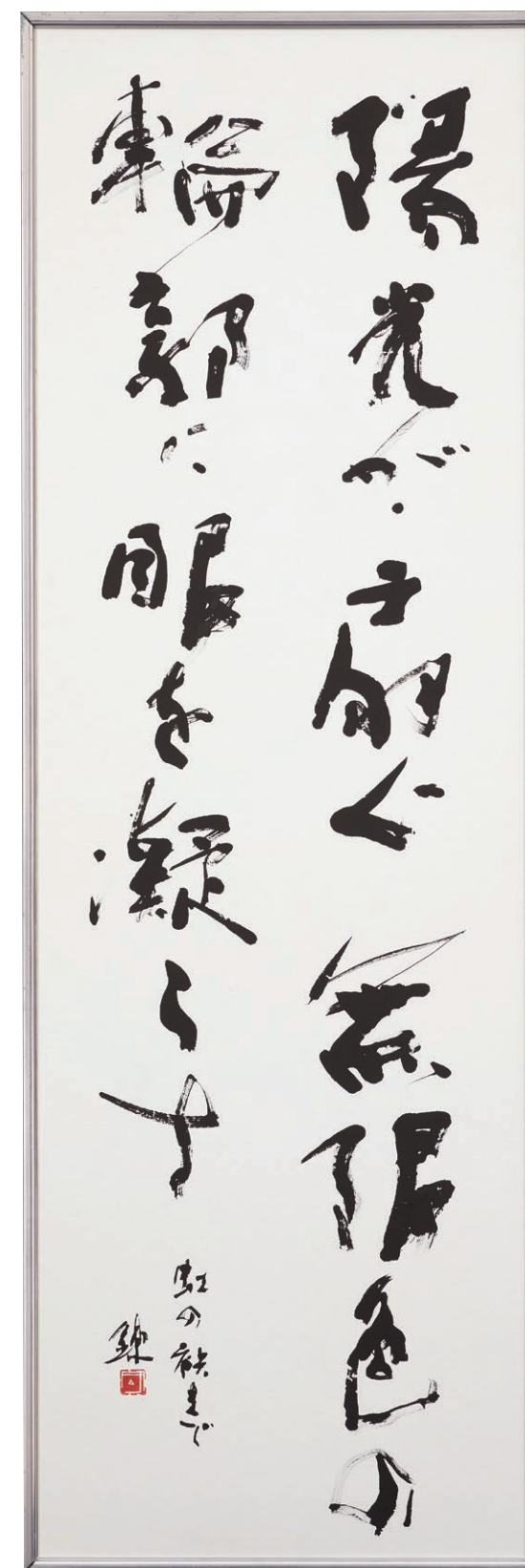
39×30cm

[略歴]

1964年 横浜市生まれ。
河野隆に師事。
読売書法会 理事
謙慎書道会 理事
山手学院中学校・高等学校 教諭

[受賞歴]

日展入選 (5回)
読売書法展 読売俊英賞 (2回)
第54回神奈川県美術展 かながわ賞



特選

自作詩「虹の袂まで」

日守 鍊

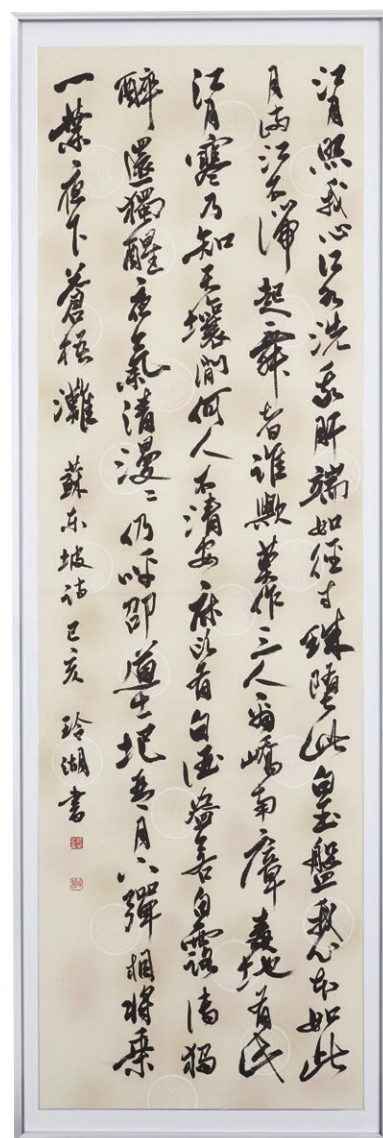
180×60cm

奨励賞

藤州江上夜起對月贈邵道士一首

淺見 玲湖

173×53cm

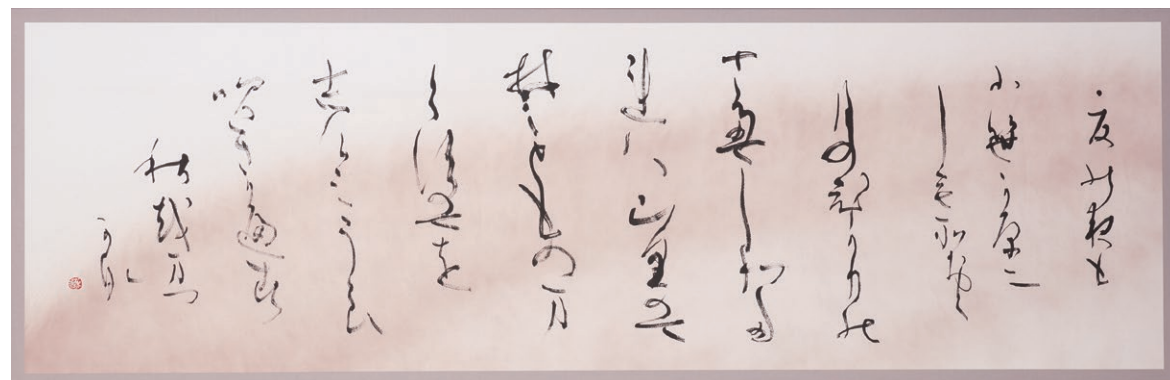


かながわ賞

夏の夜も

鳥海 花春

152×73cm

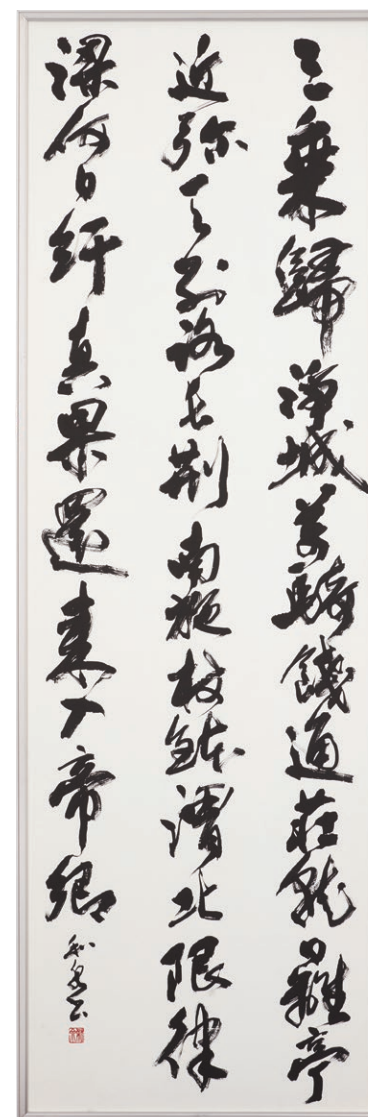


かながわ賞

宋之問詩

三橋 和泉

180×60cm

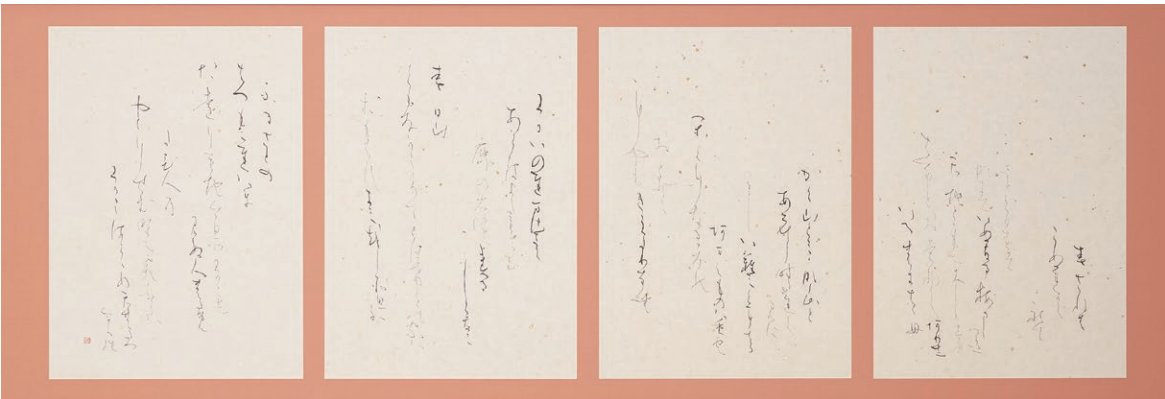


美術奨学会記念賞

道無窮

小林 史青

150×70cm



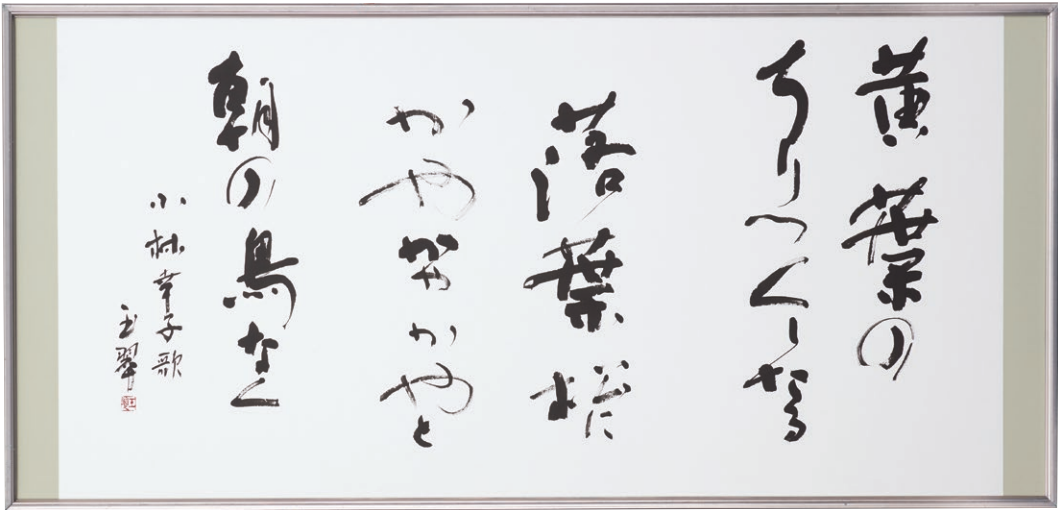
美術奨学会記念賞

古の天地に思いを馳せて～万葉集より～
宮林 玲翠
61×182cm



県文具事務用品団体連合会賞

詩 父からの贈り物
岡田 明子
182×61cm



厚木市文化振興財団賞

こばやしゆき こ
小林幸子の歌
紙崎 玉翠
73×152cm

生物を写した印象深い写真が何点かありました。生物の力強さを表現したもの、生態やコミカルな動きをとらえたもの、擬人化したものなど、表現の広がりを感じられました。そして、多くの風景写真が集まりました。選外にするのが惜しいものも複数ありましたが、入賞作との差は、主にプリントの質によって生じていたと感じます。一方で、人物を主役とした写真は少ないようです。

高レベルの写真が多く、審査の途中では審査員の意見が分かれることもありました。しかし、点数が絞られていくと、上位の入賞はすんなりと決まっていきました。

大賞の中村佳綸さんの「ふたつのひかり」は、柔らかなトーンで細部まで表現されたプリントです。植物の葉や、カーテンやランプシェードの布の質感まで伝わります。そのことによって、それぞれの空間にそそぐ光が、より魅力的に感じられます。

準大賞の加藤裕子さんの「落ちる影の中で」は、歩くひとびとを定点観測のように撮影しています。人の動きや、切り取り方の変化でリズムが生まれています。シンプルなアイデアですが、唸らされる組写真です。

特選の藤本寿春さんの「種子（ゼラニウム）」は、種子の形状が面白く、綿毛の美しさも際立っています。ものを眺めることの楽しさを実感できる写真です。

かながわ賞の岩崎茂樹さんの「津軽の冬」は、焼き込みによって緊張感が生じ、厳しい寒さや孤独を表現できています。同賞、荒川拓大さんの「Presence」は、ガラスの反射によって、不思議な光景が作りあげられています。モノクロ作品の応募は多くはありませんでしたが、かながわ賞の2点は、どちらもモノクロならではの魅力を再確認させてくれました。

奨励賞の小澤良治さんの「親子の春」では、父と子のあたたかな関係が、明るい色彩から伝わってきます。少し離れた場所から撮影したことで背景がいき、映画の一場面のようにになりました。

ニコン賞の清水進さんの「舞娘^{まいこ}」は、鮮やかな色

彩と、大胆な構図が気持ちの良い一枚です。顔の表情も素晴らしいですが、そこに寄りすぎることなく、白い扇子を手前に持ってきたことが功を奏しました。

美術奨学会記念賞の加藤優里さんの「調」は、プリントの色調を揃えたことで、馬の滑らかな毛並みと、凹凸がある岩場という、本来は異なる質感のものに統一感が生まれ、互いに影響し合う関係になっています。同賞のZhang Yanboさんの「Miss You」は、縦位置の写真の上部に空間を確保したことで雪が映え、物語を感じさせる写真になっています。まっすぐこちらに眼差しを向ける猫の、心の内を想像してしまいます。

以前の応募者のなかに、新たな作品を寄せてくれた方々がいました。何年も挑戦し続けている方もいることでしょう。丁寧に作られたものは、どのような写真も入賞する可能性があります。ただ、入賞することだけが目的ではないと感じている人も多いのではないのでしょうか。

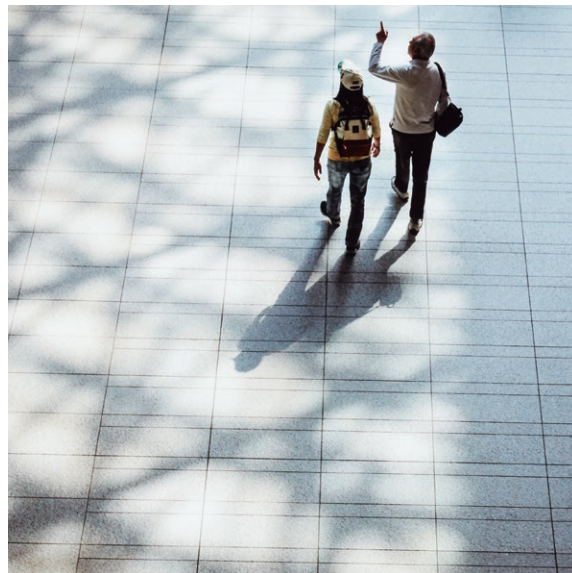
入賞を目指す時間のなかには、新たなスタイルの構築、自分がつくりあげたものからの脱却、目標への挑戦、成果の実感など、さまざまなものが含まれているはずです。試したいアイデアを複数かたちにして応募することや、長年取り組むシリーズから毎年応募するなど、公募の写真賞には様々な利用の仕方があるのではないのでしょうか。自分にあったやり方で、挑戦し続ける方や、新たに応募する方が増えることを願っています。



大賞

ふたつのひかり
中村 佳綸

〔略歴〕
1995年 沖縄県に生まれる
現在、神奈川県在住
2017年 写真表現に関心を持ち、写真を撮り始める



準大賞

落ちる影の中で
加藤 豁子

〔略歴〕
1935年11月 東京都世田谷区 生まれ

〔受賞歴〕
2010年 JPS展 入選
2013年 ハマ展 入選
2015年 JPS展 入選
2016年 JPS展 入選



特選

種子 (ゼラニウム)
藤本 寿春

奨励賞

親子の春
小澤 良治

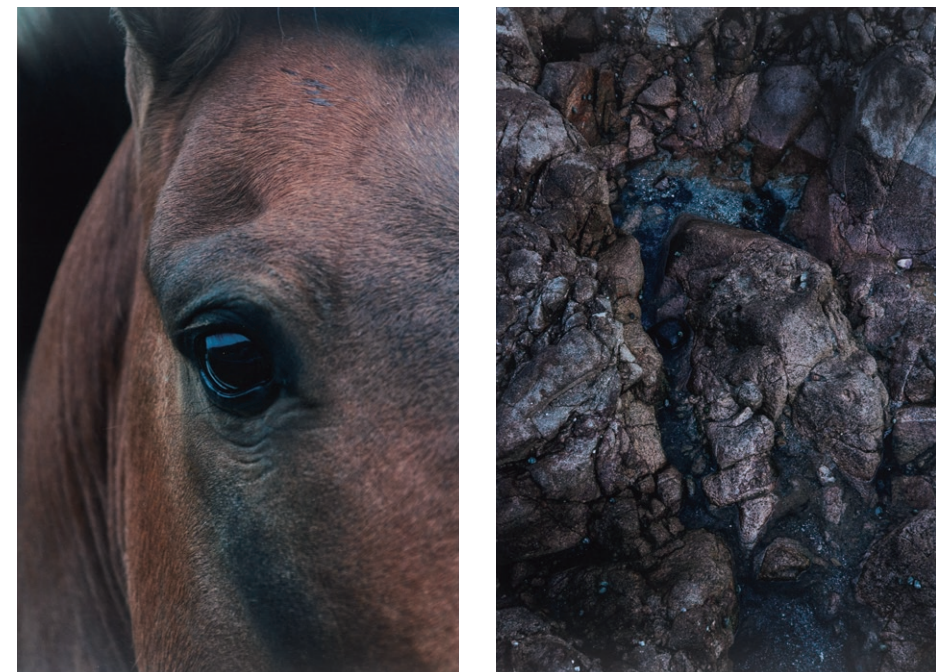


かながわ賞

津軽の冬
岩崎 茂樹

かながわ賞

Presence
荒川 拓大



美術奨学会記念賞

調
加藤 優里



美術奨学会記念賞

Miss You

Zhang Yanbo



ニコン賞

まいこ
舞娘

清水 進

人から人へ情報を伝えて72年
これからも人の心に残る製品を創ります。



UV印刷機導入いたしました

画集・美術展図録を制作から印刷・製本・納品まで
一貫した体制で承ります。お気軽にお問い合わせ下さい。

株式
会社 **気生堂印刷所**
<http://www.kiseido.jp>

〒143-0015 東京都大田区大森西4丁目6番13号
Tel.03-3766-1711 Fax.03-3766-1976
e-mail: print@kiseido.jp

The 55th Kanagawa Art Exhibition 2019
第55回 神奈川県美術展

発行：神奈川県美術展委員会
神奈川県民ホール内
〒231-0023 横浜市中区山下町3-1
TEL.045-662-5901(代)

写真撮影：秋葉雅士
印刷：株式会社気生堂印刷所
発行：2019年9月4日



THE 55TH
KANAGAWA ART EXHIBITION
2019